

Book Preview

富山高校図書館 2026.10



『 月と地球の進化論 』

レベッカ・ボイル【著】

有人月探査のアルテミス計画が進められ、日本人宇宙飛行士初の月面着陸が現実味を帯びてきた昨今、月への関心は益々高まってきている。本書は、サイエンティフィック・アメリカン誌の寄稿編集者でありスミソニアン航空宇宙社などに多く寄稿するレベッカ・ボイルにより、月の進化や地質学から、人類の進化や文化・環境への影響まで、私たちの知り得ないさまざまな情報を提示し、わかりやすく論じていく。月に影響された古代の天文学者や、ヨハネス・ケプラーをはじめとする科学革命の主要人物も紹介している。

『 努力は人を育てる 』

林 咲希【著】

高校までは全国区でなかった”無印”の選手が、いかにして日本を代表する選手になったのか、いかにして代表のキャプテンの座まで射止めたのか。白鷗大学、ENEOS、富士通で多くの出会いを経験し、自身の新たな可能性を見出していった過程を詳しくまとめました。努力と考え方、鍛え方次第では、自分が思っている以上の力を発揮し、どこまでも成長できることを証明できる一冊です。



『 ちくま新書 だれが戦争の後片付けをするのか 』

越智 萌【著】

戦争にかかわる法は、人類の歴史のなかで着実につくられてきた。21世紀に入り、「戦争後の法（ユス・ポスト・ベルム）」と呼ばれる概念が注目されている。本書では、ロシア・ウクライナ戦争をおもな例にとりながら、戦争犯罪の捜査・裁判、兵士の帰還、被害者への賠償といった戦後処理の実践を紹介する。類のない、「終戦後」論である。「著者の、研究過程で戦争犯罪について悲しみに浸って感じた、一瞬の安らぎと希望を共有するため、「戦争の後片付け」の発展と未来について、できるだけ実事例を紹介しながら記述する。」

『 電子を知れば科学がわかる 』

江馬 一弘【著】

本書は物理学の基本がよくわかる、入門的なまさに科学への入口ともいえるべき一冊。「電子」の発見から、その基本的な性質、量子力学からみた電子のありさまとそのふるまい、あらゆる化学反応の主役ともいえるべき電子のはたらき。われわれの生活技術を支える、金属・半導体と電子、そしてヒトをふくむ生物の体の中でも活躍する電子など、世界に充ち満ちている「電子」の性質、その不思議なふるまいを支えている。その多岐にわたるはたらきを余すところなく解説していきます。



『 言葉にすれば願いは叶う 』

田中 慶子【著】

ドライ・ラマ、テイラー・スウィフト、ビル・ゲイツ、オードリー・タンなどの通訳を経験してきた田中慶子さん。「世界で活躍する日本人を増やしたい」と、コーチングなども行っています。そんな田中さんが同時通訳を通して見ているステキな「ひと・もの・こと」を、覚えておきたい英語のフレーズとともに紹介。なじみあるフレーズに深い意味を感じたり、思わずクスッと笑ったり、一歩踏み出す勇気をもらえたり。英語が苦手な方にこそ読んでいただきたい1冊です。日本トップクラスの同時通訳者の英語をめぐるみずみずしいエッセイ。